

第3講 卒業論文・修士論文について発表 (2) (10/15)

作成：田中重人 (准教授)

1 論文のまとめかたについて

「問い」と「答え」はできるかぎり簡潔に

- 論文のどこからとるか?
- 複数ある場合も

「問い」を理解するのに必要な予備知識と、「答え」を正当化するための根拠は、すべて記述すると膨大になる

- その分野では普通の知識とそうでないもの
- 発表の際は、重要性に応じてとりあげる

批判と発展の可能性について

- 方法・技術についての批判
- 論理に基づいた批判
- 他の研究との比較
- 対象の拡大
- 別の問いへの発展

2 日本語教育学専修の卒業論文について補足

2.1 テーマ

過去の卒業論文の研究テーマは様々。日本語の教育に関するものは意外にすくない。多いのは日本語、日本語学習環境 (ボランティアや年少者の問題を含む)、ひろく日本社会に関するもの (ファッションから家族問題まで)。

2.2 方法論

質問紙調査、インタビュー、メディア分析 (日本語教科書を含む) が多い。そのほかに2次データ分析 (社会調査データやコーパスの2次利用)、実験、参与観察、理論研究が少数。

2.3 卒論執筆のスケジュール

例年の卒業論文関連行事は次のような内容 (<http://www.sal.tohoku.ac.jp/nik/gakubu/sotsuron.html>)

4-5月: 構想発表会

6月: 中間発表会 (第1回)

7月: 進捗状況の報告会 (4年生と教員の個別面談; 年によって開催)

10月: 題目提出、中間発表会 (第2回)

11月: ドラフト (草稿) 提出

1月初旬: 卒業論文提出

1月末-2月: 論文発表会、口頭試問

3 本のみつけかた

現在の学問の分野は「〇〇学」「〇〇論」といった専門分野に非常に細かくわかれている。自分の興味と学問の体系を結びつけて、どの研究分野でどのような研究がおこなわれているかを把握していくとよい。

本を探すにあたっては、その研究分野の基礎知識から身につけていくこともできるし、自分の興味のある具体的な問題に直接取り組むこともできる。

研究に関する本は、研究者向けに書かれたものから、一般の人を想定読者層とするものまで、さまざまである。最初のうちは、研究者向けの、いわゆる「学術書」よりは、基礎的なことを幅広く扱った入門書・教科書・新書などを読むのがよい。

避けたほうがよいもの: 論文集、資料集、事典、講演録

4 書誌情報

文献の同定に必要な情報を「書誌情報」(bibliographic information) という。本の場合、基本的な書誌情報はつぎの4つ。

- 著者 (あるいは編者・訳者など)
- 出版年
- 標題
- 出版社

状況によって、これに「版」や「シリーズ名」「標準番号」などが加わることもある。

日本で出版された本の場合、いちばん最後 (広告をのぞく) に「奥付」というページがあって、そこに書誌情報が載っていることが多い。海外での出版の場合は、たいていは、いちばん前 (タイトルページの裏面) に同様の情報がある。

5 次回までの宿題

次回授業時に、次のものを持ってくること

- 学術的な内容を含む本1冊
- その本の目次部分と奥付を1枚にコピーしたもの (2枚作成して、1枚は提出、1枚は授業で使用)